

【件 名】	水元公園花菖蒲田改修工事（その2）	【事務所名】	東部公園緑地事務所	
【工事場所】	東京都葛飾区水元公園地内	【受注者名】	天龍造園建設株式会社東京支店	
【工 期】	令和7年10月22日から令和8年3月27日まで	【主たる技術者名】	監理技術者 吉田 敦	

【工事概要】

はなしょうぶ苗鉢上げ1,800鉢、はなしょうぶ植付
1,500鉢、

プラ擬木板柵土留670m、デッキ修繕5ヶ所ほか

【表彰理由】（※発注者側評価）

本工事は、緑化フェア開催に向けて確実な完成が求められる中、軟弱地盤による土留め杭の想定以上の沈下や、厳冬期の水中作業など、極めて厳しい施工条件の下で実施された。受注者は、杭端部が施工翌日に沈下する等の施工上の課題が発生した際には、作業班ごとに得られた優良事例として沈下量を想定した高さ管理を行うことを全班へ共有し、効率的かつ確実な施工手順を確立した。その結果、品質・安全を確保しながら工程の遅延や重大なトラブルを発生させることなく工事を完遂した。さらに、工事完了後を見据え、施設管理者向けの土留め補修マニュアルの作成や植栽地の土壌診断を自主的に実施し、維持管理の高度化にも貢献した。現場課題を組織的な知見へ昇華し、事業効果の最大化と将来の維持管理まで見据えた取組は特に優秀である。



施工前



施工後

【受注者の声】

◇ 苦労した点

プラ擬木板柵土留の施工；一般の構造物に比べ施工手順に未確立の要素が多く、工程序盤は全くペースが伸びなかった。地盤が緩いとすぐに沈下してしまうため、手直しも頻発。冬期の水中作業だったこともあり、心身ともに苦しい時期が続いた。

◇ 特に工夫した点

うまくいかない作業を一つずつピックアップし、最終的にどうクリアしたかを施工班ごとに総括し、現場全体に展開。これを繰り返すことで徐々に進捗が上がり、手直しもなくなっていった。歩掛は、序盤1～2スパン/日 ⇒ 終盤8～9スパン/日 まで改善。

◇ 現場で得られたやりがいや達成感

植栽や擁壁のように手順が定形化された作業と違い、「水中の土留柵」の施工方法を自ら確立していく過程は、手探りの連続だった。その分、うまく進むようになったときの喜びは大きかった。

◇ 建設業の将来を担う若手技術者や学生に対し伝えたいこと

自分の頭で考えること、人の話をよく聞くこと、両立させることは難しいけれど、ものづくりにはどちらも欠かせないと思っています。



プラ擬木板柵土留の施工 1,2月の冬期に水中作業）